



ありがとう一世紀。  
これからも、ずっと一緒に。



Mino-o

阪急電鉄開業100周年記念 宝塚線・箕面線

# ええはがき コンテスト

## 入選作品集



Toyonaka

Juso



Umeda



## Index

コンテストの概要	1
最優秀賞 写真部門	2
最優秀賞 絵画部門	3
歴史・思い出賞	4
学生優秀賞	5
大阪ええはがき研究会賞	6
審査員賞 有野永霧先生	7
審査員賞 井上正三先生	8
審査員賞 茶谷幸治先生	9
テーマ賞	10
大阪市 北区長賞	11
大阪市 淀川区長賞	12
豊中市長賞	13
池田市長賞	14
箕面市長賞	15
川西市長賞	16
宝塚市長賞	17
努力賞 大阪市北区	18
努力賞 大阪市淀川区	22
努力賞 豊中市	25
努力賞 池田市	31
努力賞 箕面市	35
努力賞 川西市	41
努力賞 宝塚市	45
努力賞 テーマ作品	55
審査員の先生方からのメッセージ	56

阪急電鉄が最初に営業を開始した路線である宝塚線・箕面線沿線は、豊かな自然や落ち着いたまちなみ、歴史的な資産、ソフトの蓄積等さまざまな魅力にあふれています。その宝塚線・箕面線が開業100周年という節目を迎えるにあたり、さらに100年先にも守り伝えていきたいさまざまな地域の資源を発見・発信し、その魅力をより多くの方が共有していくことは、沿線地域の将来にとって非常に重要なことと考えられます。

海外のまち等では、さまざまな絵はがきが発行されており、まちを訪れた人だけでなく、絵はがきを受け取った人にも、まちの魅力を効果的に伝える役割を果たしています。このコンテストでは、まちの魅力を発信するツールとしての「絵はがき」に着目し、さまざまな方の発見した地域(まち)の魅力や作者の思いを凝縮した絵はがきである「ええはがき」を募集いたしました。

この作品集は、このコンテストに応募いただいた約2000枚のええはがきの中から選ばれた、100点の入選作品を掲載したもので、巻末には全入選作品のデータも収めています。

この作品集を通じて、みなさま方に宝塚線・箕面線沿線の魅力を再認識していただくことができたなら、そして作品をきっかけにまちで実際にその魅力を再発見する楽しさに気づいていただくことができたなら、私どもにとって大きな幸せです。

## テーマ

「阪急宝塚線・箕面線沿線 100年後も守り伝えたい地域(まち)の魅力再発見」

豊かな自然や歴史的資産、さまざまな活動など、いろいろな視点から見た地域の魅力を写真やイラストなどで切り取り、それらに対する思いやメッセージをそえた絵はがき「ええはがき」を応募していただく。なお、思い出の中の風景等を対象にした作品や、複数枚のはがきをセットにした作品の応募も可。

## 作品募集期間

2010年2月1日～5月7日

## 賞

最優秀賞 写真部門・絵画部門	各1点	豊中市長賞	1点
歴史・思い出賞	1点	池田市長賞	1点
学生優秀賞	1点	箕面市長賞	1点
大阪ええはがき研究会賞	1点	川西市長賞	1点
審査員賞	3点	宝塚市長賞	1点
テーマ賞*	1点	努力賞	86点
大阪市北区長賞	1点		
大阪市淀川区長賞	1点		

### ※テーマ賞

宝塚・箕面線沿線を大阪市内(梅田駅～三国駅)、大阪府内(庄内駅～池田駅、箕面線内)、兵庫県内(川西能勢口駅～宝塚駅)の3つのエリアに分け、応募者が設定したテーマ(例:花のある風景、川、祭りなど)に基づき、各エリアから1枚づつ、計3枚で構成した作品をテーマ賞対象作品としました。

## 審査員

有野永霧(写真家)、井上正三(画家)、杉本容子(大阪ええはがき研究会)、茶谷幸治(イベントプロデューサー)

主催:阪急電鉄株式会社

共催:阪急阪神ホールディングス株式会社

後援:大阪府、兵庫県、大阪市、豊中市、池田市、箕面市、川西市、宝塚市、池田市観光協会、箕面市観光協会、川西市観光協会、宝塚市国際観光協会

協力:大阪ええはがき研究会

## ええはがきとは...

ええはがきは、「大阪ええはがき研究会」が提唱するまちの魅力を発信する絵はがきのこと。写真やスケッチに加え、作者の思いを伝えるコメント、撮影・スケッチした場所の地図が載っているのが特徴です。

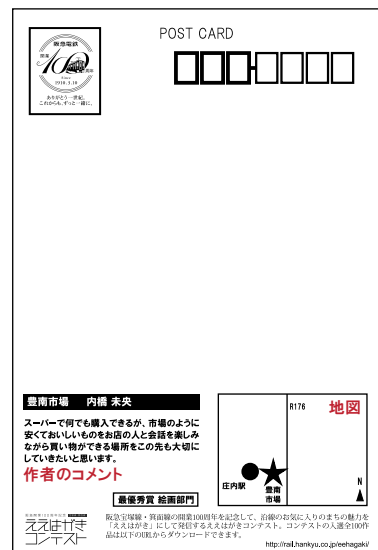
### ええはがきの3つの楽しみ方

**見て楽しむ:** この作品集を見て、沿線のええスポットを再チェック!

**行って楽しむ:** ええはがきの作品の舞台は、阪急宝塚線・箕面線沿線。ええはがきを片手にまちの魅力を探しに行ってみよう!

**送って楽しむ:** ええはがきはもちろん葉書として活用OK。送って、あなたのまわりの人にまちの魅力を発信してみよう!

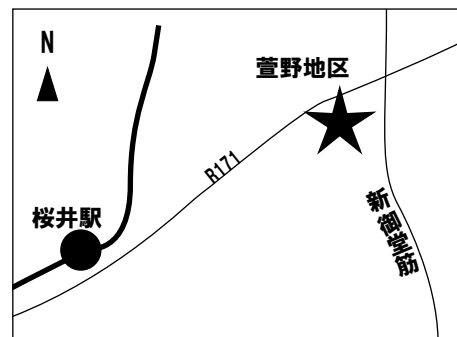
写真・スケッチ





五月のレンゲ畑（箕面市） 當山 悦司

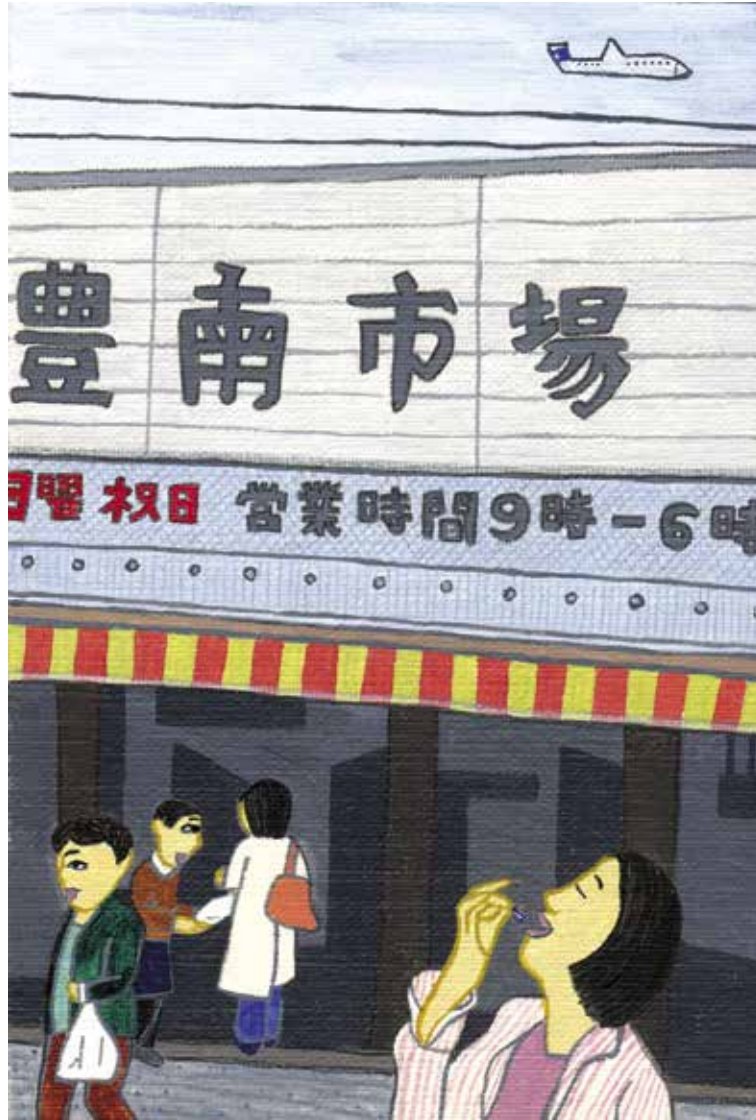
箕面市立病院の北側に日本の五月を代表する風景が残っている。それは広々としたレンゲ畑から、箕面の山々の緑を背景に見る、旧西国街道沿いの街並みの景色である。そして親子の鯉のぼりが、青空を楽しそうに泳いでいた。



審査員  
講評

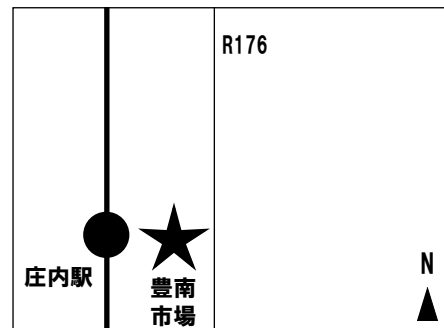
まさに日本の田園風景が展開しています。畑に広がるれんげの花絨毯を前景にして、春の薫風をいっぱいを含んだこいのぼりがさわやか感を増幅しています。沿線にこのような別天地があることを発見し、何のてらいもなく穏やかな心で写しとめた作者の大人の感性に感動しました。（有野永霧）





豊南市場（豊中市） 内橋 未央

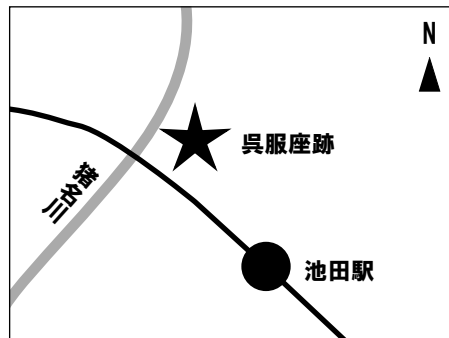
スーパーで何でも購入できるが、市場のように安くおいしいものを、お店の人と会話を楽しみながら買い物ができる場所を、この先も大切にしていきたいと思います。



審査員  
講評

自然な感受性の発揮が画面全体からまず感じ取れます。市場の前の人の表情や動作を独特に表現しており、まるで静止しているかのような飛行機も存在感があります。伝統を繋いできたと思われる市場の看板も印象的です。地域性のある何とも楽しい嬉しい作品です。(井上正三)

呉服座（池田市） 富田 好久



明治41年に尾崎行雄、大正になって中村鴈治郎、昭和になって澁谷天外、浪花千栄子、藤山寛美など来演する。テレビ等の普及により昭和44年惜しまれながら解体、愛知県犬山市明治村に移築された。今日が見納めと近隣から観衆が大勢集まりました。

呉服座は明治25年には池田市西本町に建てていたことを示す棟札が発見されている。この写真は舞台正面の緞帳である。この図柄は古くから池田に伝わる、クレハトリ・アヤハトリが中国(呉)から渡来したことを表したのではなかろうか。



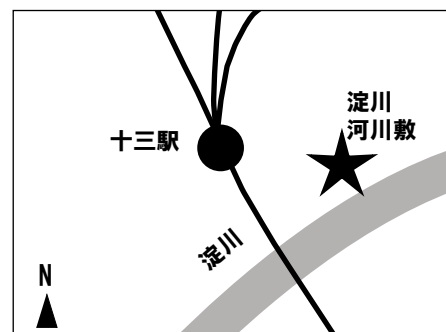
審査員  
講評

宝塚線が開通したころ、池田の呉服座(くれはざ)で近隣の人たちが歌舞伎や寄席を楽しんでいました。阪急はすぐ近くの室町で日本最初の分譲住宅を売り出しています。その後の池田市は北摂の拠点都市として発展し、写真の撮られた昭和44年には人口は9万人を超えていました。なつかしい呉服座の満員の客席は、その頃の雰囲気いきいきと伝えています。(茶谷幸治)



淀川の日常（大阪市淀川区） 吉野 麻衣子

天気が良いとついつい自転車で行ってしまふ場所。  
風がきもちよく、小さな魚がたくさんいました。



審査員  
講評

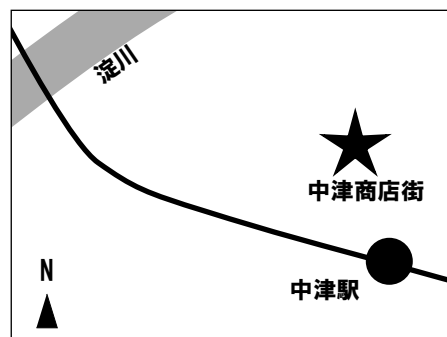
青春の夢と挫折の入り混じった若者の心が感じられる写真です。未来性を表すブルーと穏やかな波が美しく、心を和ませてくれます。と同時に、捨てられた傘と机という廃棄物を見つめる若者の不安感が切なく悲しい。この対照が見事にミックスされて、味わい深い青春譜が歌い上げられています。（有野永霧）





## いらっしゃい！（大阪市北区） 松田 真弓

ここの商店街は古いからよくカメラを持った学生さんが来はるんよ。と気さくに話しかけてくださる商店街の人達。端から端まで何人のお店の方と話したんだろうか。ほのぼのとした日常を感じる時間でした。



### 審査員 講評

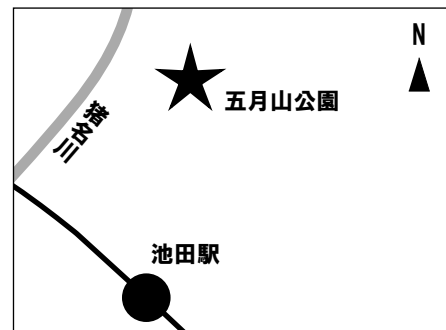
有名な観光地でも美しい風景でもない、普段のまちの様子を切り取っている点に、作者独自の視点を感じます。また、タイトルを「いらっしゃい！！」、コメントに関西弁を使い、人々が生き活きと暮らすまちの魅力をうまく伝えているところが、「ええはがき」のツボをおさえています。たくさんの方がいろんな視点でまちを見ることで、まちの魅力がアップする可能性を感じさせる作品です。（大阪ええはがき研究会 杉本容子）





宙(そら) (池田市) 森 誠

五月山から見える町並み  
100年前はどの様に見えていたのだろうか？  
100年後はどう変わっているのだろうか？  
ただ一つ、SORAだけは  
このままであると信じている。。。



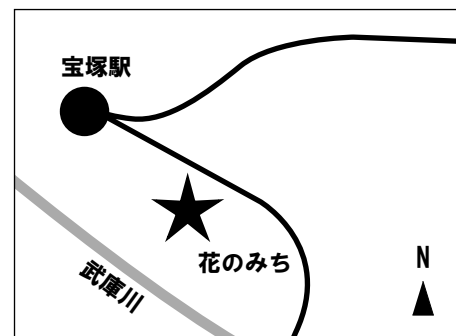
審査員  
講評

離着陸をする飛行機のランプの光跡が、薄暮の空にリズムカルに点と線を描いています。時間の選定が的確で、トワイライトが見事に写しとめられています。あまりにも美しいので、SF的で、幻想的で、不思議な時空間の世界に引き込まれます。優れた技術と感性が百万ドルの夜景を彩っています。(有野永霧)



宝塚 花のみち (宝塚市) 三宅 君代

今も昔も変わらない、歌劇場への花のみち。やっと絵にすることが出来ました。



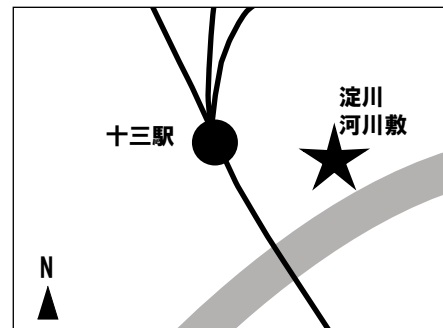
審査員  
講評

のびのびした線と大胆で軽快な筆使いにより、こだわりのないインスピレーションを感じさせます。明るくほのぼのとした暖かさのある絵で、花のみちの華やかな風情と賑わいを感じさせます。(井上正三)



ほのぼの風景（大阪市淀川区） 土屋 弘

都心の中に、こんなほのぼのとした風景がありました。菜の花畑と近代都市という一見不似合な風景をバランスを保つ鉄橋が仲人しています。喧噪の中のオアシスを見つけて思わずスケッチしました。



審査員  
講評

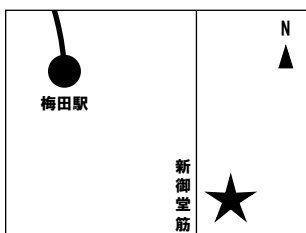
現在の淀川は、明治43年に当時の中津川を大改修した人工河川です。前年に新淀川橋梁が架けられて、淀川完成と同じ年に宝塚線も開業しました。その頃、この絵の辺りでは菜の花や葦が繁茂していました。いま、十三大橋付近の淀川右岸の土手から望む都心のビル群は、悠々と流れる淀川に映えて、息を飲むスケール感があります。作品は、阪急100年を一枚のスケッチにおのずと表現しています。（茶谷幸治）



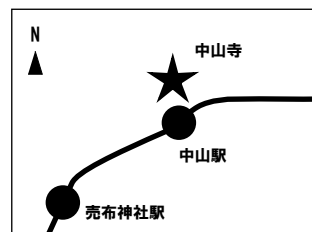
## 格子のある世界 (大阪市北区・箕面市・宝塚市) (匿名希望)



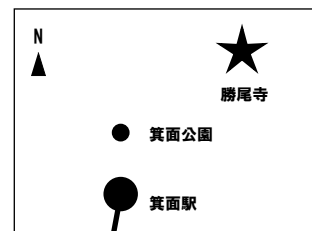
大阪市北区にある大融寺です。淀の方(秀吉の妻)が葬られています。天井と提灯の格子柄に着目し鈴緒越しに撮影しました。



中山寺にある観音様をデザインしたスタンドグラスを捉えました。格子柄に鮮やかに彩られた素敵なオブジェです。



勝尾寺の扉の格子部分に置かれたダルマを撮りました。規則正しく置かれたダルマは見ていて気持ち良く、同じように置きたくなります。



### ※テーマ賞

宝塚・箕面線沿線を大阪市内(梅田駅～三国駅)、大阪府内(庄内駅～池田駅、箕面線内)、兵庫県内(川西能勢口駅～宝塚駅)の3つのエリアに分け、応募者が設定したテーマ(例:花のある風景、川、祭りなど)に基づき、各エリアから1枚ずつ、計3枚で構成した作品をテーマ賞対象作品としました。

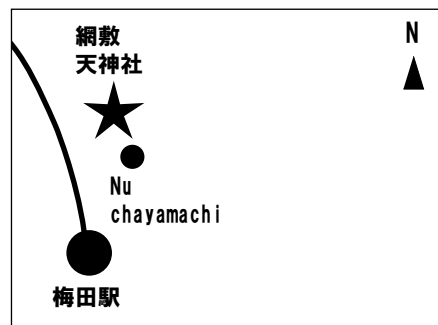
### 審査員 講評

(「中山寺」について)……観音様とスタンドグラス、この組み合わせの妙に感動した気持ちが伝わってきます。しびい色合いのスタンドグラスと網目の鉛に周辺の影が映り、観音様の周辺にざわめきを感じさせます。このスタンドグラスを室内側から見たい衝動に駆られます。(井上正三)



**網敷天神社 (匿名希望)**

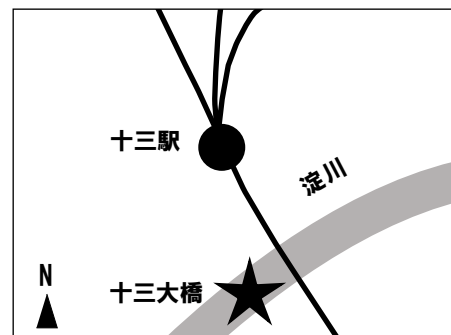
茶屋町改札口からすぐのところにある、ビル群に囲まれた天神社です。忙しく行き交う人々は多けれど、案外見過ごしがちなスポットです。地元に愛されている天神社です。



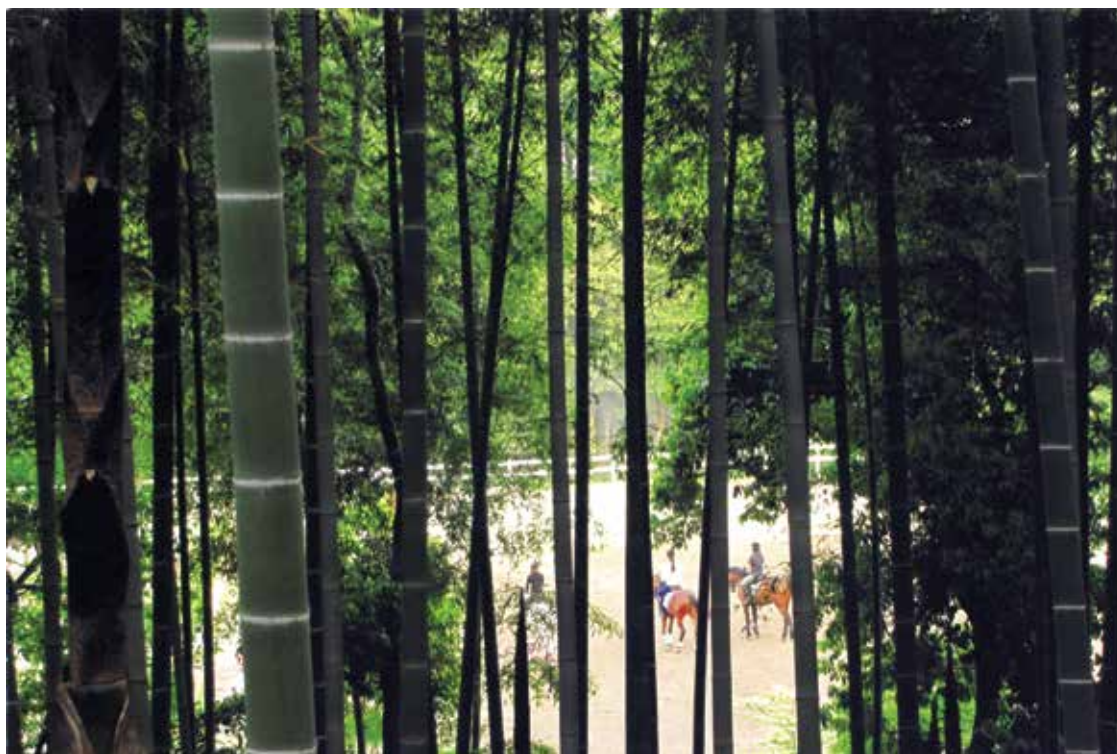


**十三大橋の夕焼け 鶴田 奈都子**

冬の季節になると電車の窓から見える十三大橋の夕焼け空の鮮やかさがとてもきれいで印象的だったので、写真に収めたいと思い撮影しました。

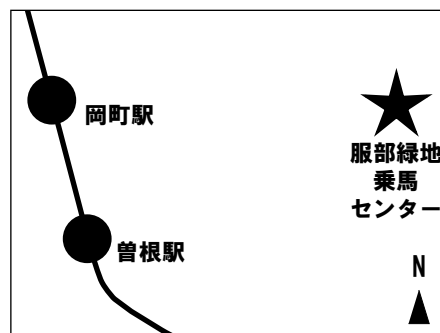






竹林と乗馬センター 橋本 修一

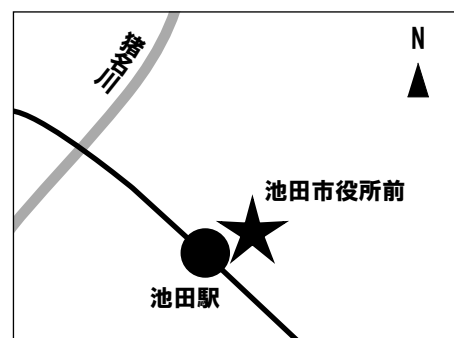
連休の公園をぶらぶら散歩して過ごす。木々の美しい季節。竹林越しに見え隠れする乗馬センターの様子が楽しく思わずシャッターをきった。





**池田の火祭 前川 敏夫**

がんがら火祭のグランドフィナーレ。市庁舎前での一コマ。大たいまつが集結して熱気と迫力を肌で感じた1コマです。





箕面の艶 樋口 友希

自然と美しい景色がお気に入り、毎年訪れている。初めて来たのは、11年前の高校の同窓会。だから来るたびに、私の青春時代を思い出し、懐かしい気持ち込み上げてくる。

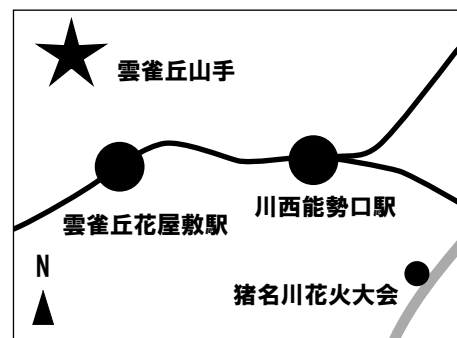






**猪名川花火大会 森下 正**

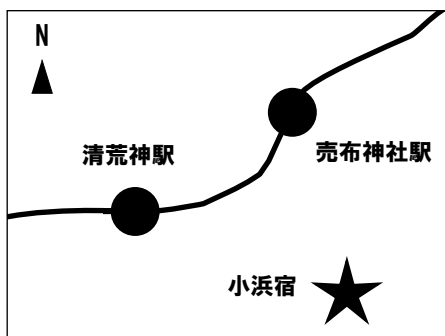
雲雀丘山手に上がって猪名川花火大会を見たが、高速道路や街の灯を背景に花火が目の高さに上がり、暑さを忘れる一夜であった。





小浜宿 小山 智子 (2枚組)

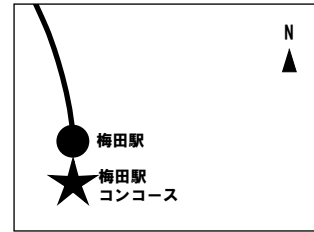
はなやかな宝塚から15分も歩くと昔懐かしい路地や建物が点在する小浜宿がある。メイン通りの大きな建物と、ふと足がとまる路地の坂道に絵心をそそられる。





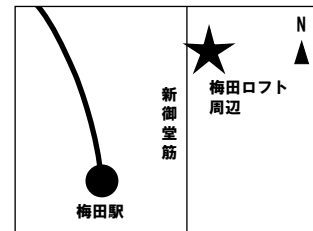
Meet me at Big Man アラン ワイレン

友達、世界中の、ビッグマン前で見つける。



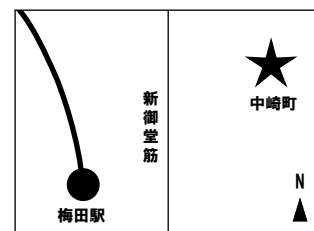
Misunderstanding 足立 直人

人は見ているようで実は、人に見られている物であり、人によって違うフィルターを通して他人に認識され誤解の中で存在する。そこにあるのは、明るい未来か、それとも誤解だらけの過ちか？

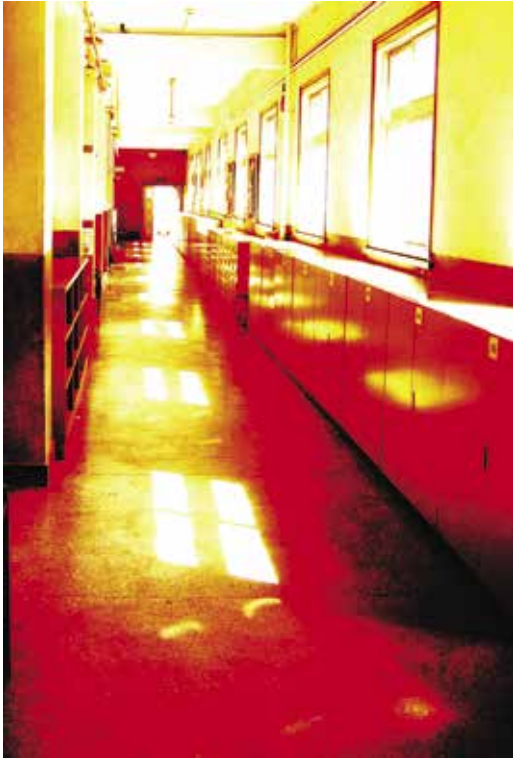


映画館 石原 佳代子

どこか知らない場所につながっているような入口。長い通路の奥には何が見えるのだろうか。タイムスリップしてしまいそうな映画館。

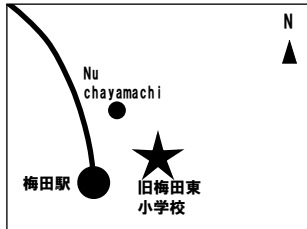






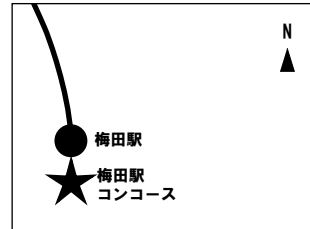
**同じもの同じでないもの 塚本 訓子**

誰もが様々な思い出を持つ、学校という場所が面白くて好きです。補修されている廃校も多い中、使用感の残ったこの場所は、今にも子供の遊ぶ声が聞こえそうで、自分の忘れていた記憶もよみがえらせてくれます。



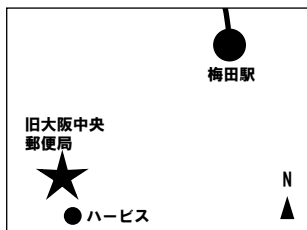
**旧梅田駅コンコース 田浦 紀子**

建築家・伊東忠太が設計した旧梅田駅コンコース。アーチ状の天井にレトロなシャンデリア。ドームを覆う唐草模様の装飾。黄金色に輝く大広間の様子は今も鮮やかに思い出されます。



**去りゆく者 本城 利彦**

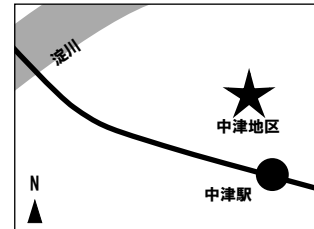
どうしてこんな名建築を壊すのか...又、安っぽくて大きいだけの建物を建てるのか...写真を見る度にくやしさと腹立たしさがこみあげてきます。





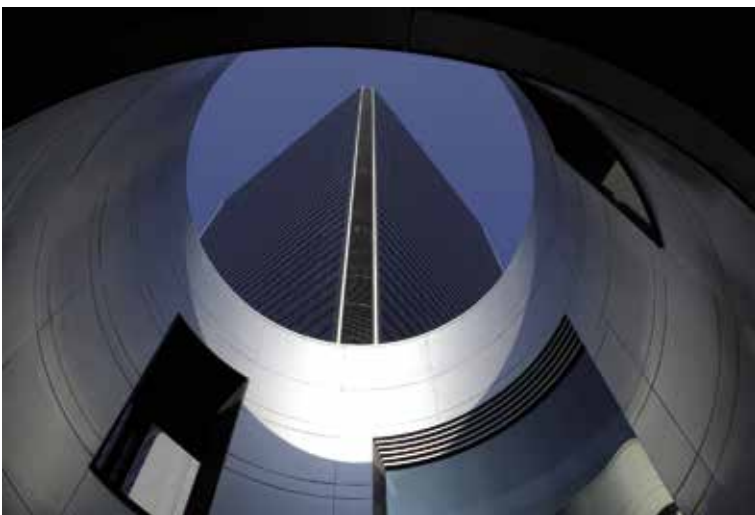
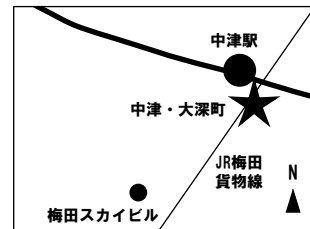
### 下町 野口 裕子

梅田からわずか一駅とは思えない下町情緒溢れる町、中津。梅田の高層ビルを見上げながらも昔ながらの人の繋がりを感じさせるこの町がいつまでも変わらないことを願います。



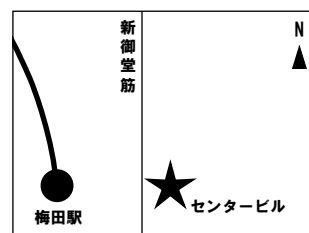
### 取り戻すまで 塚本 訓子

中津界隈の線路のある風景が好きです。大きな線路を隔てて、全く違う光景が広がり、まるで現在・過去・未来が同居しているような感覚に襲われます。これからも様々な表情を見せる場所であってほしいです。



### ビルの面影 中谷 義和

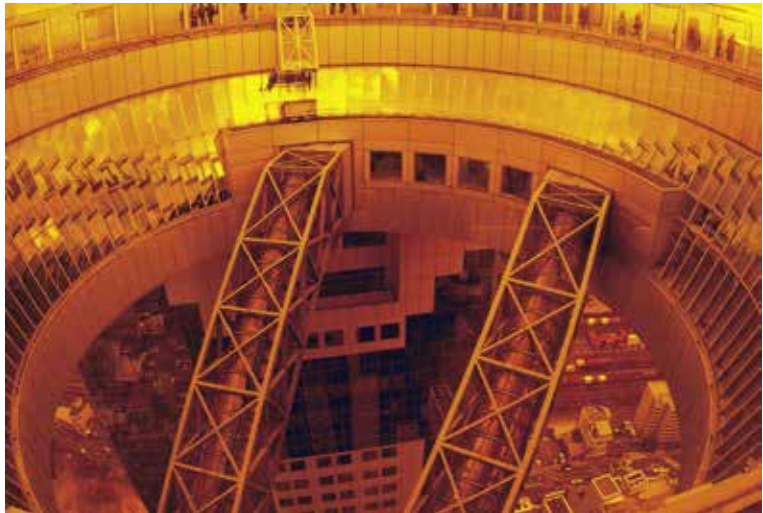
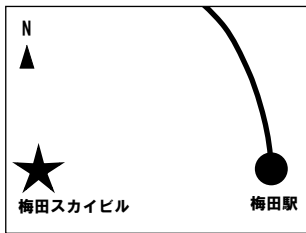
梅田センタービル。今から23年前に建てられ、当時超高層ビルの景色は珍しかった。今現代の感覚で再度見上げると、葛飾北斎の大浪(建物外側)と遠望富士(高層ビル)の構図に見えました。





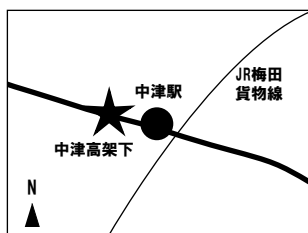
**のぼってみた (匿名希望) (3枚組)**

おかんの仕事場の中津へ行った。怒られた…。いつものことやけど。帰り道…頭ひやしに、スカイビルへ。のぼってみた…。覗いてみた。夜景みてたら…。さあ帰ろう。



**町うら 吉田 正子**

まちのアーティストの方によるデザインや絵でガード下を飾って居られるのが、とても魅力があって足を止めてしまいます。カフェやランチのお店でした。

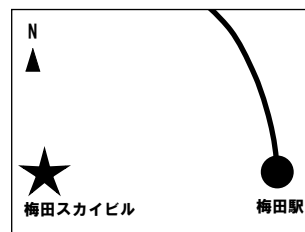






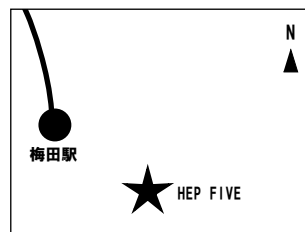
**夢のつづき 足立 直人**

何気ない日常の幸福や落胆の一つ一つがひかりとなり造形物となって今日の今を構成している、これは、誰かの夢の続きであり、私たちの努力の結晶の賜物であり、後世に受け継いでゆきたいものである。



**ランドマーク アンドー ジュン**

この観覧車が出来た頃20代だった僕らはいつだってこの観覧車と一緒にした。楽しいことも切ないことも全てを見てきた観覧車は僕らの人生のランドマークでもあります。きっとこれからも。

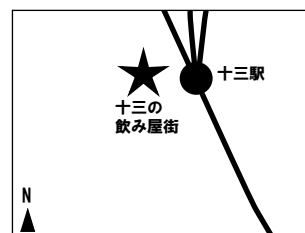


**努力賞 大阪市淀川区**



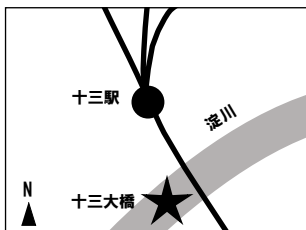
**赤提灯の似合う街 三浦 慶治**

阪急十三駅付近の狭い路地の両側には大衆酒場がびっしりと並んでいる。朝から開いている居酒屋があり、赤提灯に灯がともれば、さらに人が集まり、にぎやかな盛り場になる。

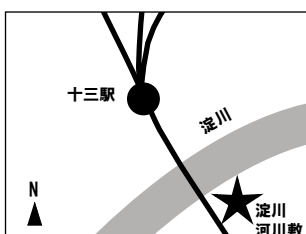


川の都の小さな発見 霜倉 真二 (3枚組)

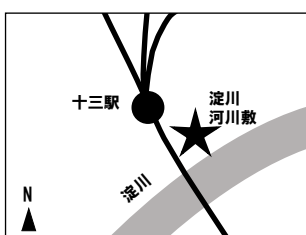
冬の朝、朝日にかがやく淀川は、渡鳥たちのゆりかご



黄金色の葦群に浮かぶ十三の街並み



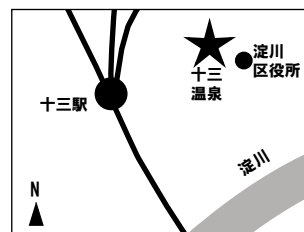
淀川に写る「逆さ梅田」





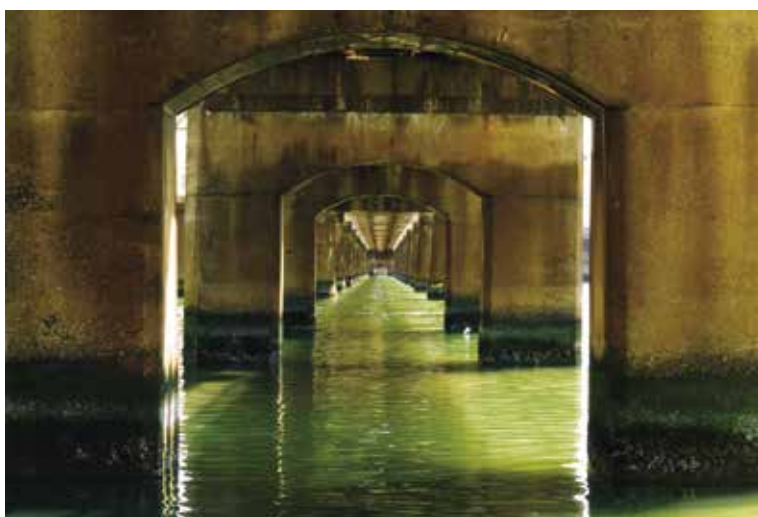
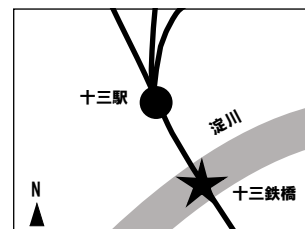
### 十三温泉 河本 房江

十三から東へ商店街を抜けたところに十三温泉はありました。今はもうありませんが、タイル貼りの壁が印象的で、強く心に残っています。



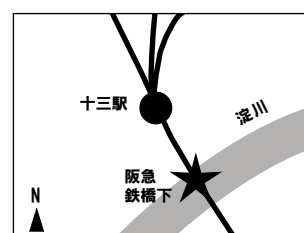
### 通勤の車窓から～十三の夜明け 安藤 直紀

烏丸発6:24(改正前)の快速急行は冬の夜明けを突き進みます。高槻市、茨木市…と車両の人が増えていく中でウトウトと…。十三でドッと人が降りて行く気配に目を開けると、外は明るくなり始めています。そして…。



### 橋の下で 吉野 麻衣子

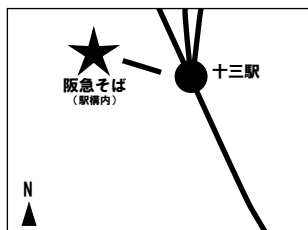
河原ぞいにあるくと、上には電車が通る橋。向こう側まで同じ形がつづいています。





## 阪急電鉄十三駅阪急そば 松村 幸子

関西地区で最初に出来た駅そば屋さんで、味良く値も手頃で品数多く大勢の利用客で賑わっています。



## 三国の渡し跡 (匿名希望)

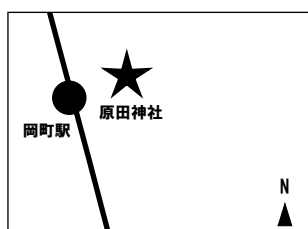
三国駅のすぐ近くに三国の渡し跡と三国橋があります。三国橋ができるまでは、渡し舟に乗って川を渡ったそうです。今もなお多くの方が行きかう橋としてその名残があります。



## 努力賞 豊中市

### 秋祭り 土井 美子

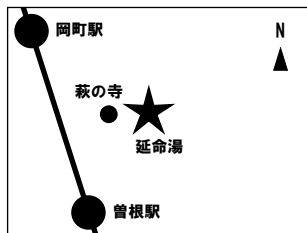
初めて行った原田神社の秋祭り。明かりが灯り、あざやかに輝く提灯と最高潮に盛り上がった祭りに感動しました。





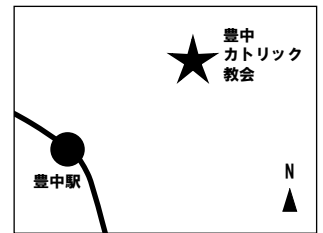
**エントツ 安齋レオ**

岡町駅から曾根駅に向かうと大きなエントツが見えます。延命湯さんのエントツです。子供の頃から今まで、豊中の町を見おろしているこのエントツを私は残したいと思います。



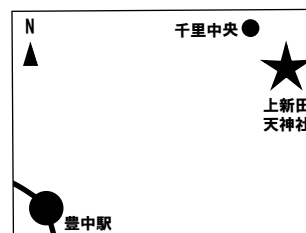
**カトリック豊中教会 若林 茂子**

転職のため、関東から豊中へ2年前に引っ越してきました。散歩コースに在るオレンジ色の屋根の「カトリック豊中教会」は私のお気に入りポイントです。木版画で制作しました。



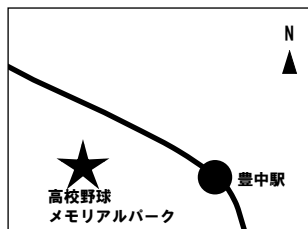
**願いをこめて 道味 薫**

毎年1月14日に行われる行事で各自が書いた書道が燃えていく時、その書いた物が実現出来る様に撮影をしながら私も願いました。



**高校野球メモリアルパーク 川良 和孝  
(3枚組)**

全国球児あこがれの高校野球発祥の地は、甲子園ではなく、豊中駅から歩いて10分の、ここ豊中グランド跡地であると知った時は驚きでした。閑静な住宅地の一角にあるパークを是非後世に残して欲しいと思っております。

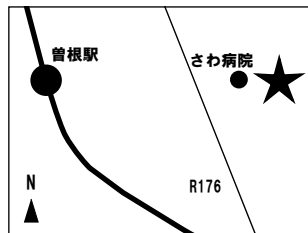




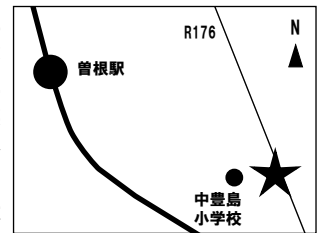


**昭和を偲ぶ 中西 撰 (2枚組)**

私は小学校6年まで、すぐ近くの“豊中アパート”に住んでいました。アパートが高層住宅になり、景色は一変しましたが、この重厚なガラスの壁(窓?)を見る度に、40余年前にタイムスリップするのです。



当時私は中豊島小学校1年生でした。小学校にはプールがなく、向かいの第4中学校までこの陸橋をわたって水泳の授業を受けに行ったのです。タオルをマントのようにひるがえて歩いた思い出の陸橋の健在はうれしいです。



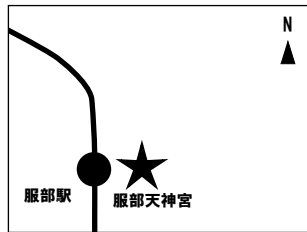
**服部の住宅街 橋本 修一**

服部の西側は飛行場に着陸する飛行機が頭上すれすれに飛んで行く。この風景が好きで時どき散歩する。公園やプールなどの施設も楽しい。



**豊中えびす参り 大河内 一宏(3枚組)**

さて、今年も豊中えびすさんにお参りに来ました。鳥居の南で神主さんより、お祓いを受けます。福餅授けもあるようです。では、早速、お参りに行きましょう。もう、お参りから帰られる方もおられます。



開運招福の大きなお札が飾ってありました。参拝に来た人は、必ず目に入るように、うまく考えて飾ってあります。今年は寅年。勇ましい顔をした寅です。まあ、ありがたいことで、では、参拝しましょう。



参拝も済ませ、「縁起物でも買って帰りましょうか。福娘さん、どれがよろしいですか」「福熊手、籐ザル、福箕など、いかがですか」「ほな、これにしますわ」「ありがとうございます」「では、また来年もきまつせ」

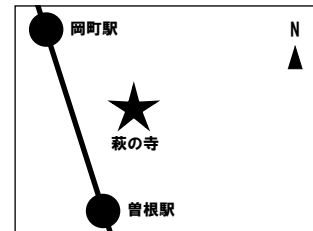






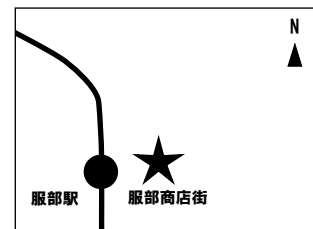
### 萩をまとったお地蔵さま 村上 明

萩の寺で名高い東光院を訪れると、ほろほろと始めた萩をまとったお地蔵さまが、ひっそりとほほえんでくれました。



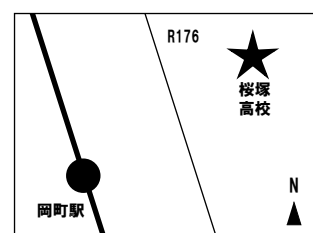
### 服部商店街 橋本 修一

服部は宝塚沿線ではととにもぎやかな街だ。服部天神や歴史もあるが、私は駅前の商店街のにぎやかさが好きだ。住宅街と歓楽街が程よく混ざり合っている。その上を大きな飛行機が飛んで行く。



### 府立桜塚高校校堀 齋藤 嘉明

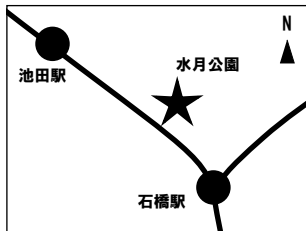
学校敷地北側の校堀(RC製)には、いくつかの桜の形が割りぬかれています。卒業後50年、その当時のまま、道行く人々の気持ちを和らげています。これからも、地域の誇りとなっていくことを願っています。





## あけぼのの水月公園 井崎 和子

「春はあけぼの～」の句の如く、早朝の水月公園で桜を鑑賞していました。刻々と色合いが変わり、時間を忘れてカメラのファインダーを覗いていました。



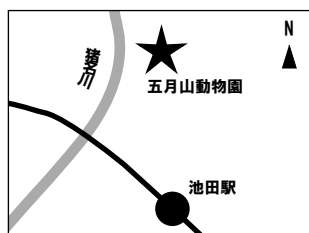
## 伊居太神社 楠 昭夫

とても雰囲気の良い神社です。もっと皆さんに知ってほしいと思います。



## 池田・五月山動物園 高嶋 彩名

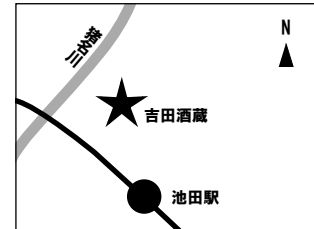
小さいころから、いつも行っていた小さな小さな動物園。いつまでもいつまでも元気でいてほしいです！！





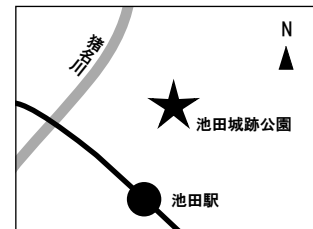
**池田市 吉田酒蔵の辺り 小山 智子**

池田市を散策するとあちこちに素晴らしい歴史的建造物がある。その一つが酒蔵で呉春の他にこの吉田酒蔵のすてきな瓦屋根がある。



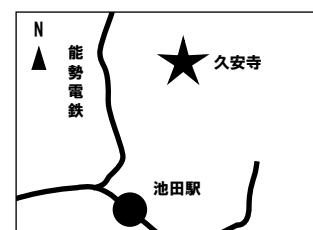
**池田城の櫓 松崎 純治**

住宅街の中にある小さな公園ですが、立派な櫓があります。展望台にもなっており、池田や川西が見渡せる絶景スポットです。



**久安寺の秋 井崎 和子**

秋真っ盛りの池田 久安寺です。燃えるような紅葉でした。

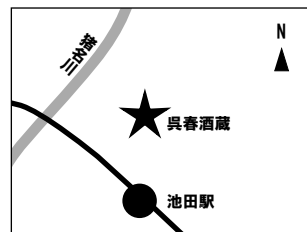




蔵元 大田 嘉治 (3枚組)



昔ながらの土壁の家、頑なに伝統を守って作る酒「呉春」は蔵元の建物を見るだけで伝統製法の美味しい酒を造っていると感じさせる。



いつの頃の建物だろうか、木戸は継ぎ接ぎ、看板も錆びてきている。摂津市池田と書かれていることから伝統ある蔵元と言うことが窺える。



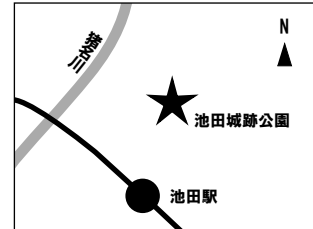
ツートンカラーの壁、窓の格子が白く光り酒蔵の美しい光景を醸し出している。時代は変われど蔵元は100年先でも今の姿を維持してほしいと願う。





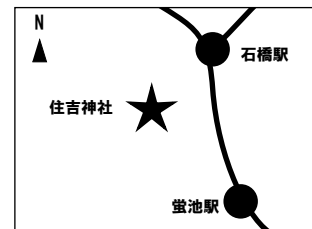
**城跡の夕景 松崎 純治**

池田城跡公園から見る夕景は、何故か懐かしく幻想的で、戦国時代にタイムスリップしたような気分になります。



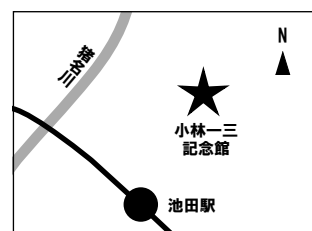
**ずっとある幸せ 岡崎 謙二**

私たち夫婦はこの住吉神社で結婚式を挙げました。いつもあるこの赤い鳥居が私たちの幸せの象徴のようで、見るたびに心が落ち着くようです。



**春の小林一三記念館 長坂 富雄**

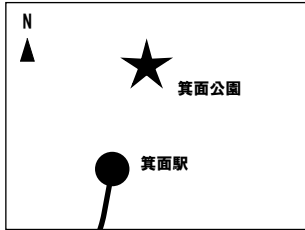
菰崎に住んでいた中学生の頃、転校生が古くて大きな門構えの家に住んでいた。あとでその家が小林一三の生家「布屋」と知った。「布屋」は移築され今は跡地の碑のみとなっている。池田に住むことになり、同郷の偉人に思いをはせている。



# 努力賞 箕面市

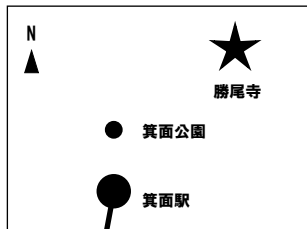
## 秋のせせらぎ 井上 良郎

谷川のそばで紅葉が逆光で輝き、川の落水とその流れのコントラストが素晴らしかったです。



## ある晴れた六月の勝尾寺 (匿名希望) (3枚組)

雨が続いて気持ちも晴れず..  
ふと..梅雨空の晴れ間に思い立って勝尾寺へ  
勝ち運もらいに...。  
だるまさん、だるまさんにらめっこしましょう..  
あつぷつぷつ。  
なんだか...気分も晴れてきた。

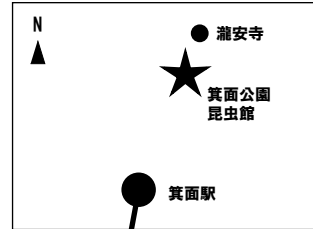






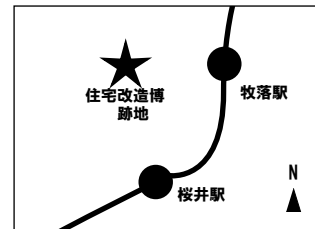
**誘 菊池 弦**

虫の館の売店にフラフラと吸い込まれるスーツ姿の男性。非日常の空間を提供する、博物館の真髄をここに見ました(笑)



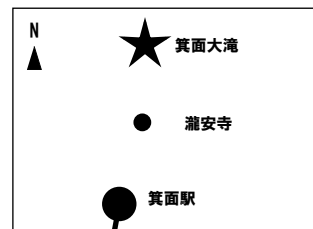
**澤村家の大王松(だいおうしょう) 岡島 信博**

箕面市内桜ヶ丘地区。この一帯は大正住宅改造博覧会の跡地。平成9年度大阪都市景観建築賞特別賞受賞。箕面市のお宝。



**新緑の中で 山田 常雄**

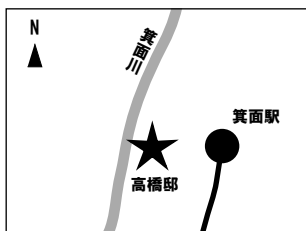
新緑の箕面の滝に訪れました。猿たちに目を少しよごされちゃいましたが、滝はきれいに落ちていました。





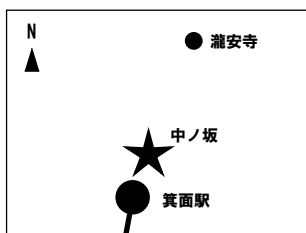
**高橋邸 永田 美津子**

箕面川に沿って建つこの家は周りの景色に調和しながら、一際目立つ存在感のある重厚でモダンな建物です。特に夕日を受けた時が美しく、国の登録有形文化財、市の景観重要建造物に指定されているだけのことがある。



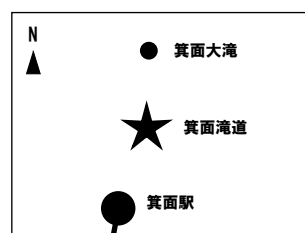
**中ノ坂の用水路 山本 晃弘**

箕面駅から滝まで馬車が運行していた頃からある昔ながらのお屋敷です。玄関の前に川が流れている珍しい所です。あまり知られていない隠れた名所です。



**夏休みの箕面の滝道 櫻井 敏幸**

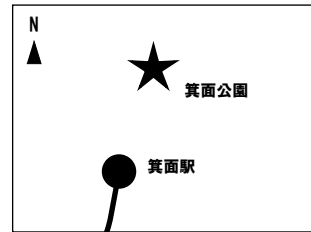
息子が小学生の頃、箕面駅から箕面の滝までよく家族で歩いた。滝近くの店で、かき氷やわらび餅を食べて休憩した。高校生になった息子と滝まで歩くことはなくなったが、夏の思い出とこの景色は今も色褪せていない。





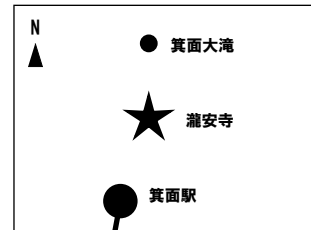
**春満開 井上 良郎**

バックの山肌が桜で満開になるのを待って、前方に主役になる1本の桜を撮影しました。



**箕面 瀧安寺 山品 一雄**

本堂の弁財天は阪急沿線「西国七福神」の一尊で有り、修験道の根本道場、また宝くじの発祥の地。本年より箕面川に「川床」が新設され人気を呼ぶことだろう。



**もみじ 高田 浩子**

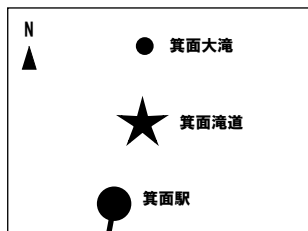
紅葉の滝。秋のひとつき。



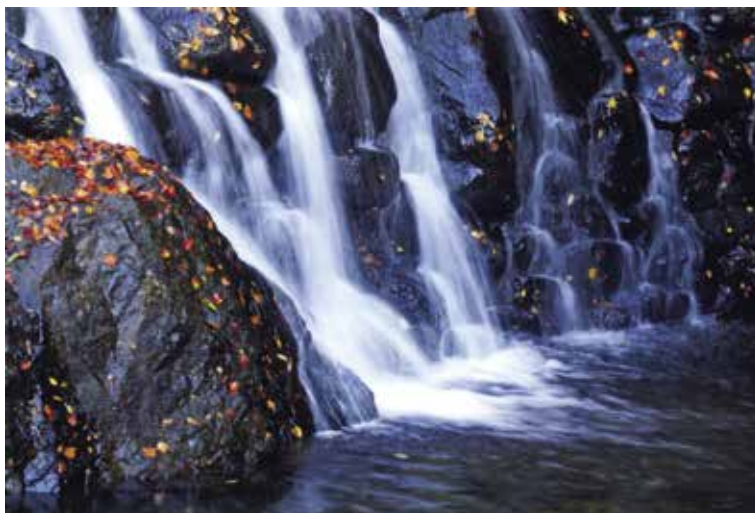


**箕面川春秋 村上明 (3枚組)**

箕面大滝にのぼる滝道は、四季折々に風情を感じさせてくれるオアシスです。そんな滝道の春と秋を表現したいと思いました。まずは春の新緑です。もみじの新緑が水面に浮かびあがります。



秋になると、箕面川が散もみじを運びくだります。



秋の夕日が、滝つぼを美しい虹で彩ることもあります。

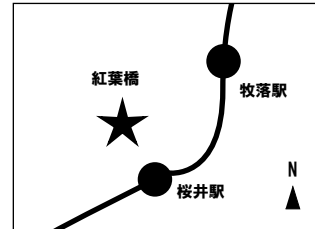






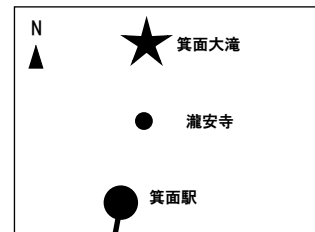
**紅葉橋のいろはかえて 岡島 信博**

箕面市の箕面川に掛る一番美しい橋で秋のいろはかえでは最高の美しさです。



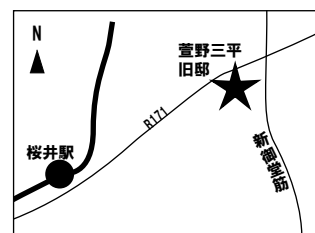
**雪の大滝 高橋 久栄**

最近暖冬のせいか、雪の風景を見る機会も少なくなりましたが、2008年2月朝凜い雪に見舞われました。朝飯もせず急いで箕面の滝まで歩き「雪の大滝」の撮影をしました。冷たさも忘れる独り占めの絶景でした。



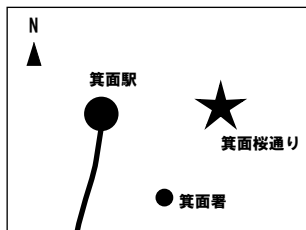
**雪の萱野三平旧邸 片岡 正彦**

箕面市の旧西国街道沿いにある大阪府指定史跡の萱野三平旧邸です。最近では雪が降らないので、この風景は見られません。萱野三平は、赤穂浪士の一人で、お家取り潰しの報せを、早箱で赤穂に知らせたと伝えられています。



## 四丁目の朝陽 上善 正憲

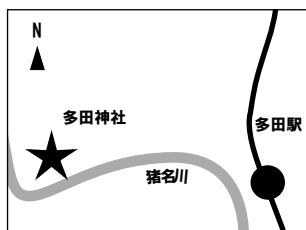
箕面の桜通りは1年に数日間太陽が昇ります。通りには建物が少ないため、まるで地平線から陽が昇るように大きく輝きます。箕面四丁目のあたりから昇るように見えたのでこのタイトルにしました。



## 努力賞 川西市

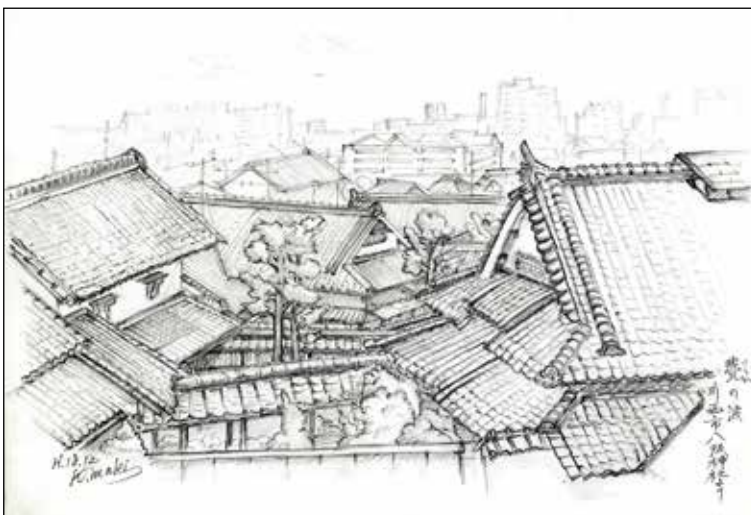
### 稲荷社と競うもみじ 村上 明

さくらで名高い源氏ゆかりの多田神社は、もみじもきれいです。神社境内の稲荷明神の赤と競うように紅葉が赤く色付いていました。



### 豊の波 牧 孝三

川西市市内には立派な屋根瓦の古い民家が多い。火打、八坂神社の石段の上からは見事な瓦屋根の佇まいが見られる。屋根の傾斜を見ていると、時代を感じると共に維持の大変さが伝わってくる。

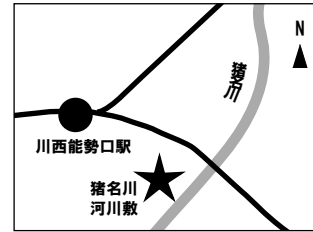






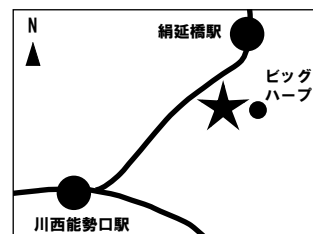
**おだやかな春 水上 毅**

猪名川の春は、こいのぼりが泳ぎ、川遊びの人々がたくさん訪れます。五月山をバックに走る阪急電車とともに、いつまでも変わらないで欲しい穏やかな風景だと思います。

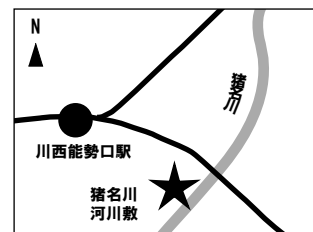


**県境に架かる橋 松橋 朝子 (2枚組)**

車の橋と歩く橋。河岸から見上げるビックハープは、巨大で圧巻。歩を進めるたびに表情変えるこの橋を、この場所から見上げるのがとても好きです。四季折々に咲く花が、いろどりを添えます。



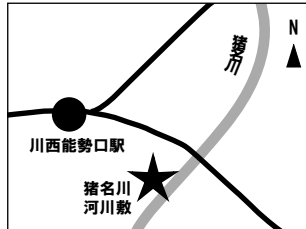
車の橋と歩く橋。池田と川西を結ぶ道。川の流れに近いこの道は、大人も子供もはしゃぐ場所。日が傾いて、向こう岸がそろそろ帰ると誘ってます。



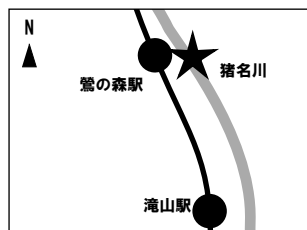


**猪名川 榎原 朋子（3枚組）**

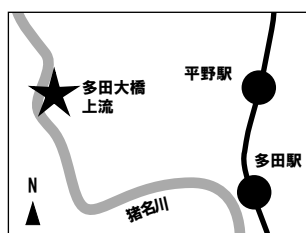
地域住民のボランティアできれいになった川には生き物の種類も数も増え、多くの親子連れが遊びに来ている。子どもたちはのびのびいきいきと自然の中をかけまわり、子どもも大人も豊かな気持ちで過ごせる場所になっている。



元うぐいすの森遊泳場があったところで、夏には阪神間から多い日には1万人が泳ぎにきていました。今では訪れる人もなく、堰には土砂が堆積して中州ができなくなり、冬には渡り鳥が羽根を休める静かな水辺になりました。



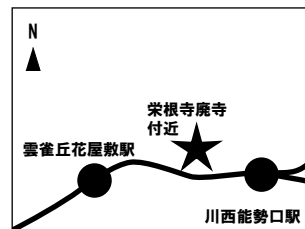
3月末頃になるとこの辺の水辺は華やかになる。この地特有のエドヒガンが両岸に咲き、渡り鳥をはじめウグイス、コゲラなどいろいろな鳥も集まってくる。オシドリが連なって空を飛ぶ姿を見た時は感動した。





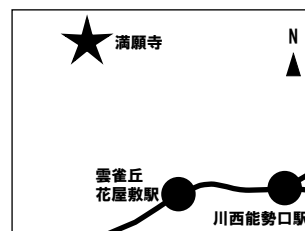
### 坂道の記憶 山本 成雄

写真と言えば白黒写真が当たり前だった頃、曾祖母に手を曳かれてこの坂を登りました。そこには公園のような広場があり、信じられない位大勢の子どもが遊んでいました。電車の音も昔の方が大きかった様な気がします。



### 山門に咲く 谷川 憲一

奈良時代の創建で、由緒ある古刹です。とくに山門は珍しく境内には四季折々の花が出迎えてくれます。



### それぞれの帰路 前川 純

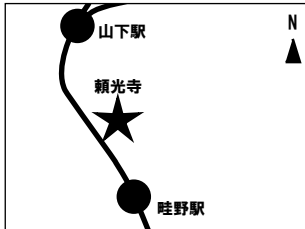
上には阪急電車、下には阪急バス。人々が、それぞれに家へと帰って行く。もちろん自分も、そのうちの一人でした。





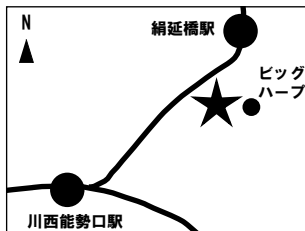
## 本堂燃える 村上 明

多田源氏ゆかりの寺、頼光寺は、アジサイが有名で、別名アジサイ寺と呼ばれています。しかし春にも本堂前の大きなシダレザクラが美しく咲き誇ります。訪れたときは満開で、まるで本堂が燃え立っているようで



## 満月昇る 高橋 久栄

8月幼稚園の夜祭のとき、五月山に満月が美しい姿を見せてくれました。猪名川に掛かる橋もライトアップされ夏の夜の感動の風景です。



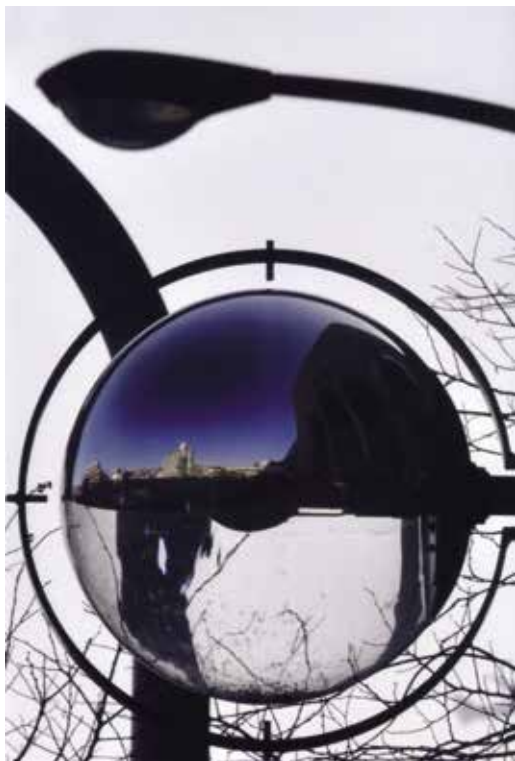
## 努力賞 宝塚市

### 青空に羽ばたく「火の鳥」 松崎 純治

永遠に生き続けるという火の鳥。100年後もこの青空に羽ばたいていることを願っています。

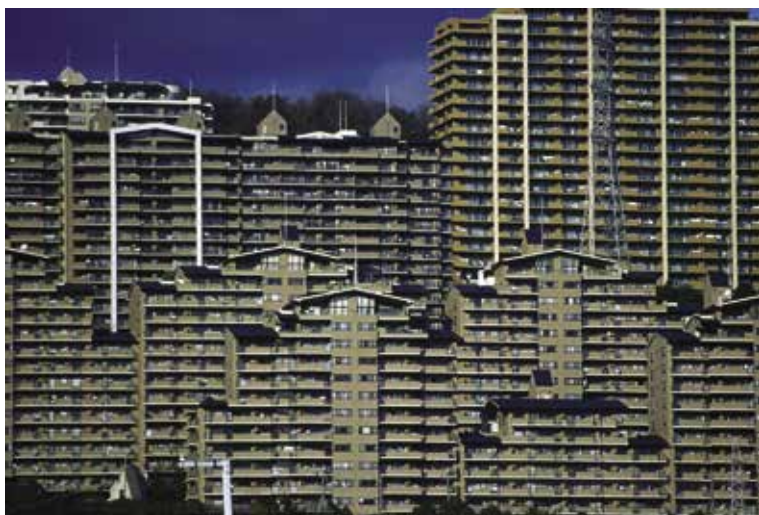
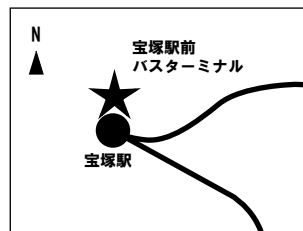






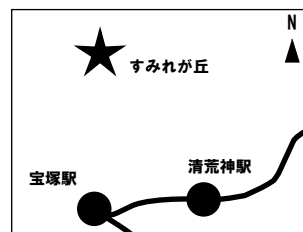
### 鏡に映る街 久田 俊成

照明器具の上部のミラーに映り込む景色が、空の青さを強調してくれる事があります。視野いっぱい広がる街並が、球の表面に凝縮されています。



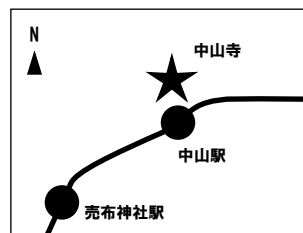
### 山上の城 山田 慶信

宝塚駅から山手を見ると、すみれが丘高層マンションが太陽の光を受けて威風堂々王城のように見える。この高台からの眺望は住む人達の心に大きく生きる力を与えてくれるように思う。



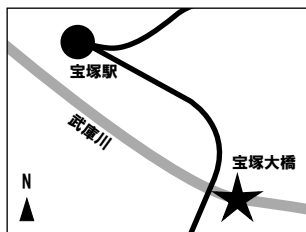
### 中山寺ブルーモーメント 柏原 誠一

当初の予想では19:30頃に訪れると思っていたのですが、なかなか赤みが撮れず、ホワイトバランスをいじったりしていたのですが、うまく行かず諦めて他のものを少し撮って帰りにAモードで素撮りしたのがこの1枚です。



**大空への希い(ねがい)**  
菊池 郁夫 (3枚組)

いつの間にか空の雲を観るようになった。日の出から日の入りまで、実に様々な雲の模様が楽しめる。だが時として身がすくむような雲の姿に圧倒される時もある。これは残暑の朝焼けの風景。



真夏の昼下がり、真青な空に秋を思わせる綿雲と夏の積乱雲を併せて見ることができた。気温は34度近くあったが、武庫川を吹き抜ける風が心地よく、少し暑さを忘れる風景となった。



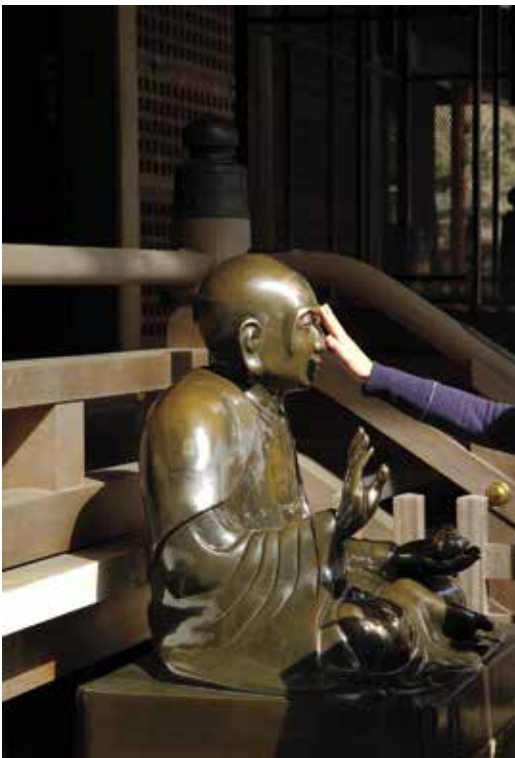
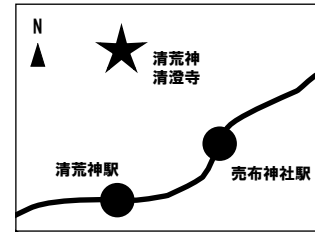
タワーマンションからふと眺めた大阪方面の空にまるで原爆雲のように湧き上がった積乱雲。ニュースでは局地豪雨だった様。橋の上の像との釣り合いが平和の祈りの様な感じとなった。





**清荒神初参り 黄前 稔 (3枚組)**

初めて清荒神にお参りました。ご婦人が賽銭を棒で手繰り寄せています。なんと、ここではお咎めなし！



十人十色、願いも様々。お陰様で私はいつもピカピカ。そっと手が伸びてきました。「貴方はどこに願いを掛けますか？」

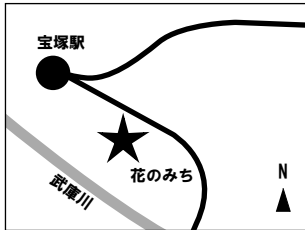


厄除け祈願の火箸との事です。私が子供の頃見た火箸は鉄サビ色の地味なものでしたが、ここでは黄金色に輝いています。この眩しさで厄も退散ですね。



散策 桂明子

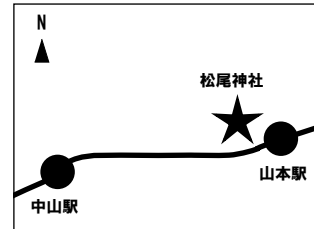
宝塚の街と、のんびり行き交う人々を撮影。  
目的地までの道のりを楽しむ会話が聞こえてきそうです。



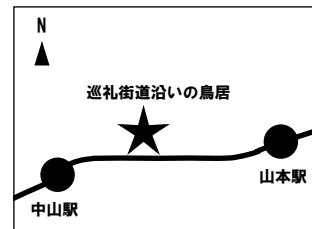


**巡礼街道の石像たち 山中 忍(3枚組)**

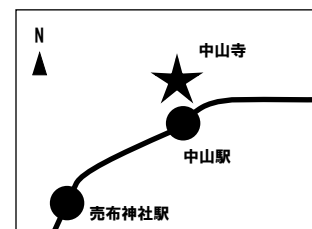
宝塚の山本から清荒神にかけての巡礼街道は、長い歴史を感じさせる風景があります。そこにひっそりとたたずむ石像たちは、多くの人々を見守ってきました。松尾神社のこま犬さんです。



宝塚の山本から清荒神にかけての巡礼街道は、長い歴史を感じさせる風景があります。家と家との間に突然現れる赤鳥居。お稲荷さんにごあいさつ。



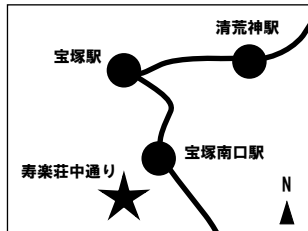
宝塚の山本から清荒神にかけての巡礼街道は、長い歴史を感じさせる風景があります。中山寺のおじぞう様はみんな温かい目をしています。





**花が散っても・・・ 寺本 真吾(3枚組)**

寿楽荘中通りは、有名な桜の名所。満開の頃は、夜遅くまで花見客や老人ホームの車が行き交う。花が散ると、道はピンクに染まる。次にシベの茶色に。新緑の美しい時でもある。



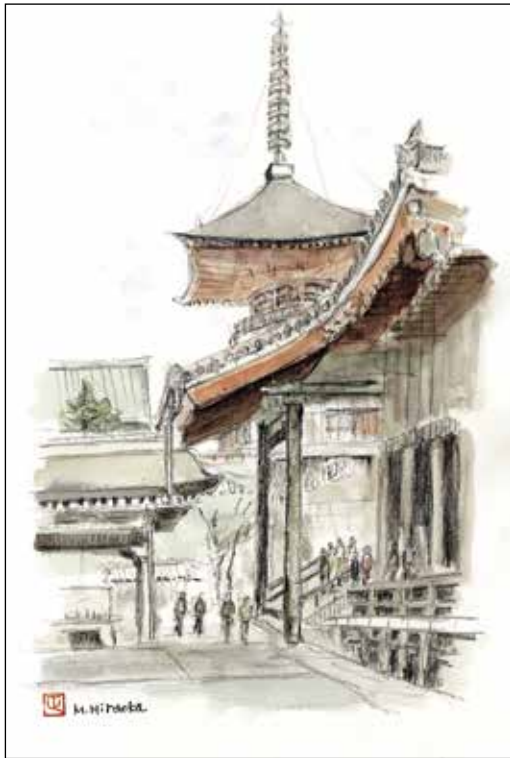
紅葉の頃は、毎日、落ち葉掃きが大変だ。しかしこれも住人の楽しみのひとつ。ご近所とのコミュニケーションも、こんなとき。



数年には一回は、真っ白な雪道になる。雪の道はしんしんとして静寂そのもの。人々は花を愛でに集まるが、花は散っても、この道は、住人の、とっておきの散歩道。住人には季節のそれぞれの楽しみがある。

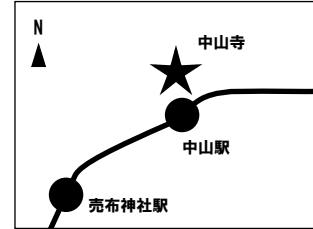






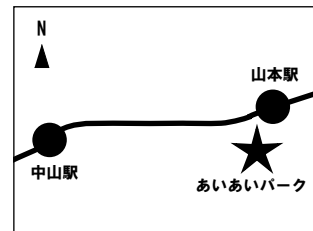
### 中山詣で 平岡 正己

スケッチに納経帖を持って出かけました。大震災で大きな被害を受けたと聞きましたが、私にとっては初めての「中山さん」。観音霊場の慈悲の気と三分咲きの梅の香に包まれながらの写生を楽しみました。



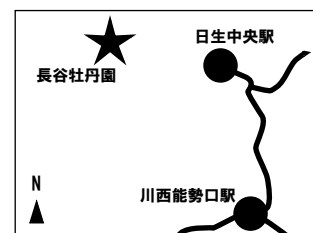
### 光は水の底まで 高井 晴紀

何度も通った道から見える美しい建物。いつもとは違う場所へ行ってみると、時間がゆっくりと流れている感じがしました。そんな気持ちを写真で表現しました。



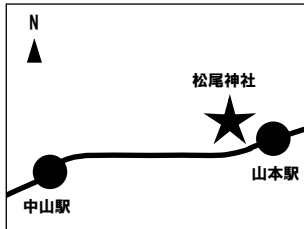
### ぼたん咲く頃 太田 憲太郎

宝塚市長谷のぼたん園、大輪のぼたんが咲き競うように五月の陽光に映えている。



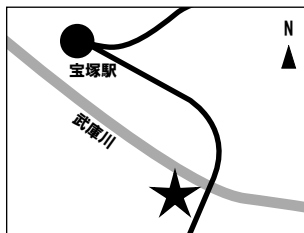
### 松尾神社の狛犬 松崎 純治

松尾神社は、千年以上の歴史ある神社。征夷大将軍の坂上田村麻呂を武神と崇めて創建されたといわれているそうです。さすがにここの狛犬は威風堂々としています。



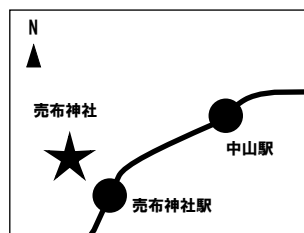
### 水面に映る営み 木下 博貴

武庫川のみなもに映る集合住宅と大劇場の白と赤のコントラストが綺麗です。また、土手沿いで水に楽しむ人々の風景には、自然に囲まれた豊かな営みを感じます。



### 売布神社拝殿 古賀 功

神々しい森の中に鎮座する神社は幼少の頃から度々訪ねた郷社でなじみ深く、拝殿は古代布を織る様を連想し荘厳さを感じます。

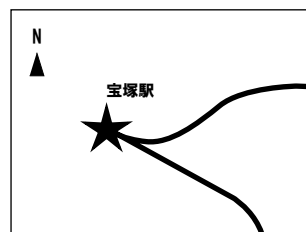






**夜の宝塚駅 武山 元信**

宝塚歌劇の雰囲気を出している夜の宝塚駅である。



**本コンテストの入選作品の発表・展示について**

本コンテストの入選作品は、以下のように発表・展示を行いました。

○阪急電鉄開業100周年記念シンポジウム  
(7月31日 宝塚ホテル)

- ・写真部門・絵画部門の最優秀賞2作品の表彰式を実施
- ・同会場にて入選全100作品をスクリーンに上映



最優秀賞 表彰式(阪急電鉄開業100周年記念シンポジウム)

○パネル展示(8月1日~9月2日 梅田駅コビッグマン前)

- ・全100作品の展示
- ・上位入選作品(本冊子の2ページから17ページで紹介した16作品)のはがきをラックにて配布



パネル展示(梅田駅コビッグマン前)

○ええはがきコンテストホームページ

(<http://rail.hankyu.co.jp/eehagaki/>)

- ・全100作品の紹介
- ・はがきデータの提供

○沿線情報誌TOKK 8月15日号

- ・上位入選作品を紹介



TOKK 8月15日号

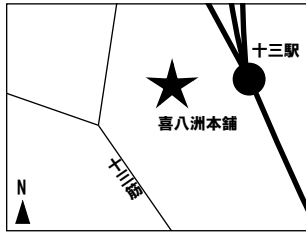


ええはがきコンテスト ホームページ

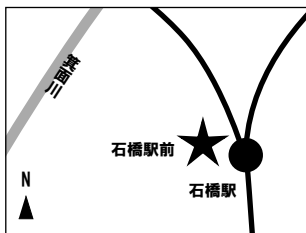
# 努力賞 テーマ作品

## 馴染みの味 佐藤 千鶴子 (3枚組)

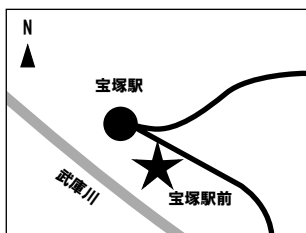
十三・喜八洲のまんじゅう。喜びの時は元気な湯気、淋しい時はしずかに。時に応じて口の中をおいさがかけめぐります。お店の前を素通りするのはなかなか勇気がいります。



石橋・がんがら火祭り。夏の祭りはがんがら火で池田の街は盛り上がります。この夏祭りにかかせないのが「がんがら火祭り」と名前のついた和菓子。がんがら火の焼き印が香ばしい。



宝塚・炭酸せんべい。宝塚の駅を下りれば花のみち、わくわくどきどきしながら観劇。感激しての帰り道はおみやげの炭酸せんべい。さくさく感がおいしい味。



### ※テーマ作品

宝塚・箕面線沿線を大阪市内(梅田駅～三国駅)、大阪府内(庄内駅～池田駅、箕面線内)、兵庫県内(川西能勢口駅～宝塚駅)の3つのエリアに分け、応募者が設定したテーマ(例:花のある風景、川、祭りなど)に基づき、各エリアから1枚づつ、計3枚で構成した作品をテーマ作品としました。



コンテストの審査員の先生方からいただいた、コンテストを振り返ってのメッセージをご紹介します。

## 有野永霧先生（写真家）

予想以上の作品数の応募があり、皆さんの阪急沿線にたいする郷土愛の深さに感動しました。数だけでなく内容も豊富で、多種多様な“ええはがき”を選ぶことができました。阪急電鉄を利用しているひとびとの地域に密着した写真活動の賜物であると感謝しています。カメラは永遠の恋人であり友であり伴侶です。このコンテストを機会に、宝塚線・箕面線に限らず阪急沿線のすばらしい景観を、カメラと一緒に楽しんでいただくことを願います。

### ■ 有野永霧(ありの えいむ)先生 プロフィール

1941年兵庫県生まれ。大阪学芸大学(現大阪教育大学)卒業。83年タイムライフ写真年鑑新人賞、94年第19回伊奈信男賞受賞。国内外で「虚実空間・都市 日本編」「空蟬の都市 アメリカ編」「無名のアースワーク 地中海編」など多数の写真展を開催し、写真集に「虚実空間・都市」「都市からのメッセージ」「都市」「虚実空間・空蟬の都市」「虚実空間・空蟬の風景」などがある。現在、大阪芸術大学写真学科教授をつとめる。

## 井上正三先生（画家）

このコンテスト応募をきっかけに、日ごろ見慣れた沿線の街並みの中に、今まで見過ごしていた魅力ある風景に気付かれた方もおられるかもしれません。ふと足をとめたくなる風景に出会ったり、時には意外な発見や心踊る出会いがあったのではないのでしょうか。そんな地域の魅力の再認識こそこのコンテストの目的であったと思いますし、地域と自分の関わりを考えるいい機会になったのではないかと思います。応募作品を審査させていただきましたが、作品の多くに、地域を愛する気持ちや出会いの感動が溢れていると感じました。私自身、こんな素晴らしい世界がこの沿線に沢山あることに驚くと同時に、沿線住民としての誇りを新たにしました次第です。応募くださった皆様に感謝申し上げますと共に、街の再発見という素晴らしい機会を与えてくださった阪急電鉄に今後もこんな機会を作ってくださいることを期待する次第です。

### ■ 井上正三(いのうえ しょうぞう)先生 プロフィール

1944年生まれ。芦屋市在住。1994年に絵はがきシリーズ「風のたより」初出版。宝塚阪急百貨店で「阪急沿線スケッチ絵はがき原画展」を毎年開催。その他、阪神間で多くの個展を開催している。郵政省の絵はがきやモロゾフ製菓のパッケージデザイン、芦屋市や宝塚市の広報誌などにも数多く採用され、2002年には、芦屋市長から米姉妹都市モンテベロ市長に水彩画「芦屋川」が寄贈されている。

## 杉本容子先生（大阪ええはがき研究会）

大阪のまちの魅力を伝えたい。その想いだけで続けてきた活動が、阪急電鉄さんの開業100周年記念の想いとつながり、今回のコラボ企画が実現しました。審査会場で目にした約2000のまちの魅力、それが集結した迫力、感動は忘れられません。何よりの成果は、事務局の皆さん、応募してくださった皆さんが、自らまちの魅力を発見し、伝える楽しさを知ってくださったことです。誠意をもって想いをつなぎ、プロジェクトを創りあげてくださった関係者のみなさま、ありがとうございました。

### ■ 杉本容子(すぎもと ようこ)先生 プロフィール

1975年神奈川県生まれ。大阪大学大学院工学研究科環境工学専攻博士前期課程修了。工学博士。一級小型船舶操縦士。国内旅程管理主任者。まちづくりコンサルタントとして大阪の水辺再生や歴史的街なみづくりに関わるかたわら、大阪ええはがき研究会など、アフターエイトに大阪のまちをおもしろくするNPO活動に積極的に参加。2009年に新設された大阪府都市魅力創造局にて、民間からの特別任用により、都市魅力プランナーとして企画調整を担当。

## 茶谷幸治先生（イベントプロデューサー）

電車を撮るのではなく、沿線の景色を描くのではなく、阪急電車のある生活感覚を写しとった応募作品が多くて、さすが阪急と思った。近頃は鉄道ブームで、疾走するマルーン色の車体も多くの人を魅きつけるに違いないが、100年前に何も無い北摂の野原をひた走った箕面有馬電気軌道を想起させるような作品が多く入賞したのも、うなずける。絵画・写真両部門の最優秀賞はすばりそのものだ。阪急は、いつもの時代も乗客や沿線住民とひとつの感覚を共有しているのに違いない。

### ■ 茶谷幸治(ちやたに こうじ)先生 プロフィール

「アーバンリゾートフェア神戸'93」のチーフプロデューサーを皮切りに「世界リゾート博」の催事プロデューサー、「南紀熊野体験博」「しまなみ海道'99」、日本で最初のまち歩き博覧会「長崎さるく博」の総合プロデューサーを務め、一貫して地域・住民主体の地域活性化イベントを主導してきた。現在、「大阪あそ歩」チーフプロデューサー。著書に「まち歩きが観光を変える」(学芸出版社)「イベント化社会」(関西学院大学出版会)ほか。

阪急電鉄開業100周年記念  
宝塚線・箕面線 ええはがきコンテスト  
入選作品集

発行 2010年10月  
編集・発行 阪急電鉄株式会社 都市交通計画部  
大阪市北区芝田1-16-1  
TEL 06-6373-5031  
URL <http://rail.hankyu.co.jp/eehagaki/>





Takarazuka

Kawanishi  
-noseguchi

Ikeda



私たちは、未来へつなぐ  
「環境づくり」と「人づくり」に貢献します。